



文部科学省



令和6年度 文部科学省 現職日本語教師研修プログラム普及事業

就労者に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	一般財団法人 海外産業人材育成協会
事業名	現職日本語教師研修プログラム普及事業 就労者に対する日本語教師(初任)研修
事業実施期間	令和6年4月～令和6年3月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者99名中、研修修了者95名

1. 事業概要

○事業趣旨

本事業は、平成31年3月に文化審議会国語分科会によって取りまとめられた「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版」(以下、「養成・研修報告」という)で示された日本語教育人材に求められる資質・能力の向上を図ることを目的とした文部科学省委託事業であり、一般財団法人海外産業人材育成協会(以下、「AOTS」という)は、「就労者に対する日本語教師【初任】研修」を通して初任段階において求められる資質・能力の向上を図るとともに、「養成・研修報告」の円滑な普及を促すことを趣旨として事業を実施した。

○事業目的

国内の外国人就労者は増加の一途をたどり、その在留資格や職種なども多岐にわたる。中でも、技能実習、特定技能、特定活動(EPA候補者)、技術研修生等の就労者(以下、「技能人材」という)は、就労を主な目的とした在留資格を有する外国人全体の約半数を占めており、既に日本の社会基盤を支える働き手として不可欠かつ貴重な存在である。

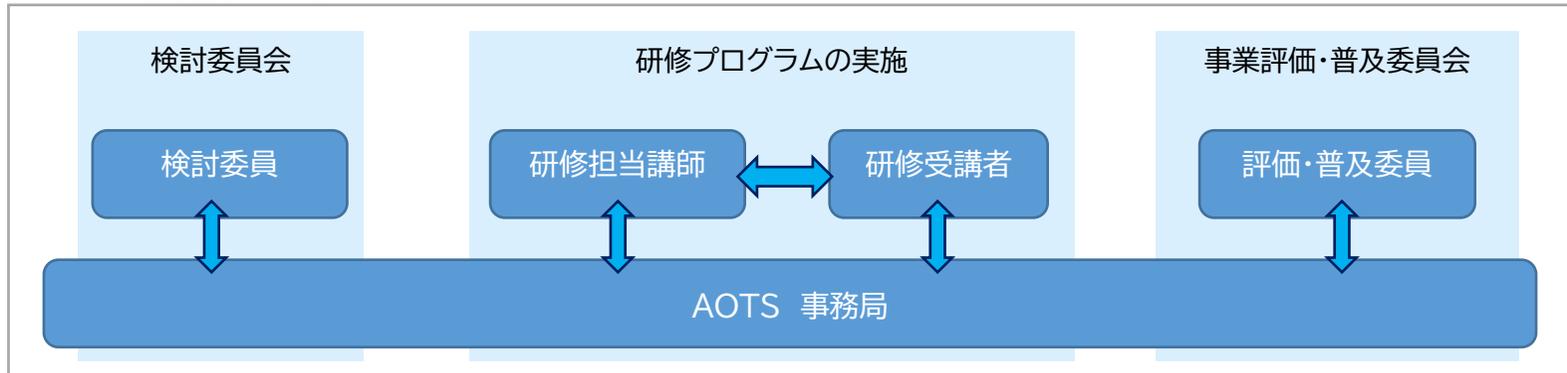
技能人材の増加に伴い、就労者に対する日本語教育のニーズが高まる一方で、それらを体系的に行うための専門的な知識・技能を有する日本語教師は、その絶対数が不足している状況にある。

このような背景のもと、AOTSは技能人材向け日本語教育の長年の経験と産業界とのネットワークを最大限に活かした研修プログラムを提供することで、現職日本語教師研修の分野で就労者に対する日本語教育の発展に寄与することを目的として本事業を実施した。

1. 事業概要

○実施体制

AOTS日本語教育センターが事務局として委員、講師、協力者、受講者の窓口となり、事業及び研修プログラムを実施した。



○事業の取組スケジュール

実施期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(a) 研修体制・方法等の検討	検討委員会開催											
(b) 研修プログラムの実施		広報・募集活動 教材等作成	研修プログラム実施									
(c) その他関連する取組			オンデマンド動画作成	学習管理システム・SNS運用			受講者・講師・事務局ネットワーキング	一部科目一般公開	運営実施マニュアル改訂			
(d) 事業全体の成果の評価									評価・普及委員会開催	改善検討・事業評価		

1. 事業概要

事業の取組内容

研修事前	4月 ～5月	研修体制・方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施の全体スケジュール検討 ・外部有識者含む検討委員会の開催（実施体制、研修内容・方法、評価方法、事業成果の普及等の検討） 	その他、関連する取り組み： <ul style="list-style-type: none"> ・LMS運用による研修基盤構築 ・受講者間ネットワーキング ・一部科目の公開と事業広報 ・コースデザイン成果物の公開 ・研修運営実施マニュアル公開
	6月 ～7月	研修実施準備	<ul style="list-style-type: none"> ・事業及び研修プログラム実施方針の確定 ・事業広報、受講者募集、申込受付、受講者選考・確定・連絡 ・担当講師との検討会議実施、シラバス確定 ・オンデマンド動画、講義資料、小テスト等の教材作成開始 ・学習管理システム(LMS)選定、決定 ・LMS運用構築に向けた準備 	
	8月～		<ul style="list-style-type: none"> ・LMS実装、利用開始 ・受講者への研修受講案内及び対応 	
研修実施	8月31日 ～ 12月7日	研修プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・研修プログラム実施 ・LMS運用、受講者管理 	
研修事後	12月 ～1月	事業全体の成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の出席率、課題及び成果物の確認 ・修了証書発行 ・外部有識者含む評価・普及委員会開催 	
	2月 ～3月		<ul style="list-style-type: none"> ・評価、改善検討 ・事業報告書作成、精算 	



2. 各研修の概要

研修プログラム概要

事業名	文部科学省 令和6年度 現職日本語教師研修プログラム普及事業 就労者に対する日本語教師【初任】研修		
研修プログラム名	技能人材にフォーカスした「就労者に対する日本語教師初任研修」		
研修実施期間	2024年8月31日～2024年12月7日		
実施日程	①8月31日(土) ②9月7日(土) ③9月14日(土) ④9月21日(土) ⑤9月28日(土) ⑥10月5日(土) ⑦10月19日(土) ⑧10月26日(土) ⑨11月9日(土) ⑩11月23日(土) ⑪11月30日(土) ⑫12月7日(土)		
科目数・単位数	26科目・62単位	実施形態は同期型・非同期型を組み合わせた全プログラムオンライン研修	
受講対象者 右記(1)～(4)を すべて満たす者	<p>(1)「日本語教育機関の告示基準」第1条第1項13号の教員要件のいずれかを満たす者 (2)原則として「就労者に対する日本語教育歴」が0～3年程度の者* (3)今後、長期にわたり就労者に対する日本語教育に携わろうという意志のある者 (4)原則として10/26～11/30のコースデザイン演習の全日程に参加できる者</p> <p>*研修プログラムにおける受講者間の学び合いやグループディスカッションの活性化のため、就労者に対する日本語教育歴が4年以上の場合でも、研修プログラム内容が自身にとって妥当とご判断した場合は申込可とした。ただし、その場合、研修プログラム内のグループ活動や演習等において、知識や経験を他受講者に共有したり、グループ内でリーダーシップをとるなどの役割を担うことを追加条件とした。</p>		
受講定員数	100名	受講料(全12回)	4,400円(税込)
修了要件 右記(1)～(3)を すべて満たす者	<p>(1)事前動画視聴を含む全プログラムの2/3以上に出席していること、 且つ、コースデザイン演習においては当該科目の全体の2/3以上に出席していること (2)事務局が定めた課題・成果物*をすべて提出すること *小テスト、振り返りノート、自己評価・アンケート、コースデザイン成果物 (3)AOTSが定めた到達目標において一定基準以上の評価に到達すること</p>		

2. 各研修の概要

○研修の目的・ねらい

就労者(特に技能人材)に対する日本語教育を行うための知識・技能を有し、学習者や受入れ企業の求めに応じて日本語教育を提供できる日本語教師を育成する。

○研修の特徴

本研修では技能人材にフォーカスし、その在留資格や制度、求められる日本語能力や試験などの背景を理解するとともに、技能人材に対する日本語教材や教授法等の実践的な技能を身につけた上で、技能人材向けコースデザインを作成する。

○到達目標

上記のとおり、研修を通して就労者のニーズに対応した実践的な日本語指導能力とコースデザイン能力を養成することを主な目標とし、以下の到達目標を設定した。

- ①技能人材を取り巻く制度や社会の実情、産業界のニーズを理解することができる。
- ②職場で生じる言語・文化的な問題を理解し、技能人材や企業に寄り添うことができる。
- ③業務遂行のための日本語教育を実践するために必要な情報を自ら収集し、それを活用できる。
- ④技能人材や企業のニーズに応じたコースデザインを行うことができる。
- ⑤技能人材や企業に対して日本語教育の必要性や学習成果等をわかりやすく伝えることができる。

○研修の重点課題

上記の目標を達成するため、以下5つの重点課題を設定したカリキュラム構成とした。※カリキュラム詳細は次スライド参照

- ・産業界のニーズ把握
- ・学習内容の絞り込みと最適化
- ・実践的な指導を実現するための学習リソースとコミュニケーション能力を養成する短期速習の教授法
- ・技能人材向けの評価とアカウンタビリティ
- ・コースデザイン能力

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

○各科目の担当講師、カリキュラム内容、「求められる資質・能力」との関係

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」
第1回 8/31 (土)	1	就労者に対する日本語教育概論	杉山充 AOTS日本語教育センター センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講前における就労者に対する日本語教師に求められる資質・能力についての自己評価を行う。 ・就労者の多様性とその日本語教育の特徴・重点課題を理解する。 ・AOTSの研修を例に各自の日本語教育に携わる立場や役割をイメージする。 	知識:(1),(2),(3) 態度:(1),(7)
	2	外国人の受け入れ政策と日本語教師	神吉宇一 武蔵野大学 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人材受け入れに関する法律や政策、背景となる日本の社会状況に目を向ける。 ・就労者に対する日本語教育を行う日本語教師・日本語教育関係者としての役割を多角的かつ具体的に考える。 	知識:(1),(2),(3) 態度:(1),(7)
第2回 9/7 (土)	3	職種・職位によって求められる日本語教育－制度における日本語能力要件－	杉山充 AOTS日本語教育センター センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・技能実習生や特定技能外国人材が日本で働きキャリアを形成する際に制度上求められる日本語能力要件や企業側が講じる日本語学習の支援について理解する。 ・就労者が受験する日本語能力を測る試験や技能を測る試験の概要、試験サンプルや学習リソースへのアクセス方法を理解した上で、日本語教師に何が期待されるか考える。 	知識:(1),(2),(3),(4) 技能:(1),(2) 態度:(1),(2),(5),(7)
	4	外国人就労者に関わる制度	折茂純哉 ACROSEED 行政書士 マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人就労者の制度の基礎知識(在留資格・条件、労働関連法など)を理解する。 ・外国人就労者受け入れ制度の課題、外国人就労者受け入れ企業で生じている問題(メンタルヘルス・海外との社会保障制度の違い等)について知る。 	知識:(1),(2) 態度:(7)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」
第3回 9/14 (土)	5	生活・就労者の日本語教育－地域日本語教室で学ぶ技能人材－	萬浪絵理 千葉市国際交流協会 委嘱 千葉市地域日本語教育推進事業 総括 コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者の「生活者」としての側面に対して必要な日本語教育の理解を深める。 ・地域日本語教室の事例をもとに、地域日本語教育は技能人材をはじめとする就労者にとってどのような役割や意味があるのかを考える。 	技能:(7),(8) 態度:(2),(3),(5),(7),(8)
	6	生活・就労者の日本語教材－『いろいろ生活の日本語』を例に－	笠井陽介 国際交流基金 関西国際センター 日本語教育専門員	<ul style="list-style-type: none"> ・在留資格「特定技能」等で来日する就労者が日本での生活場面で求められる基礎的な日本語コミュニケーション力を養成するための教材『いろいろ生活の日本語』の構成や活用方法を理解する。 	知識:(6),(7) 技能:(3),(8) 態度:(2),(5)
	7	就労者に対する日本語教育実践現場－同研修プログラム修了者による発表①－	本研修プログラム 2023年度修了者 茂田井純子	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者に対する日本語教育の実践現場での取り組みや工夫、課題や問題を知る。 ・修了者が本研修プログラムで学んだことをどのように活かしているかを知ることで、研修の活用方法をイメージする。 	知識:(6) 技能:(5) 態度:(1)
	8	意見交換交流会①	受講者間	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループに分かれて修了者プレゼンの感想を伝え合うとともに、自身の日本語教育実践での取り組みや課題を紹介する。 ・研修プログラム途中における振り返りを受講者間で行う。 	知識:(6) 技能:(5) 態度:(1)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」
第4回 9/14 (土)	9	就労現場における異文化受容・異文化適応	近藤彩 昭和女子大学 教授 同大学 日本語教育センター長 同大学大学院 文学研究科 研究科長	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化接触における個人及び集団への影響や異文化受容態度について理解する。 ・就労外国人の職場で生じるトラブルの具体例を知り、支援の方向性について考える。 	知識:(4),(5) 技能:(4) 態度:(1),(2),(5)
	10	職種別の日本語の指導法 - ウェブ教材/アプリ「げんばのにほんご」(外国人技能実習機構)を例に-	飯塚知子 AOTS日本語教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブ/アプリ教材「げんばのにほんご」(外国人技能実習機構)に実際にアクセスし、同教材の構成や特徴について理解する。 ・講義やグループディスカッションを通して同教材の具体的かつ効果的な指導法について考えを深める。 	知識:(6),(7) 技能:(1),(3) 態度:(1),(4)
	11	技能人材と語彙学習 - どんな言葉の学習が必要か考える -	飯塚知子 AOTS日本語教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・技能人材が就労するうえで必要となる言葉の特徴、既存の語彙教材を知る。 ・既存の語彙教材を用いた指導方法・学習方法を知り、自身の活動や自律学習支援に役立てられるようにする。 	知識:(5),(6) 技能:(2),(3) 態度:(1),(3)
	12	現場の企業担当者・外国人就労者の声を聞く ①・②	①ミドリ久慈衣料株式会社 ※事前収録動画の視聴のみ ②五島工業株式会社 ※事前収録動画の視聴のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人就労者の受入企業の日本人担当者の語りを聞き、外国人材の受入れに至った経緯や目的、日本語の必要性やそのレベル、外国人受入れにかかる取り組みや問題について知り、日本語教師としてできることを考える。 ・企業にて就労する技能実習生を事例として、来日経緯や目的、就労現場での業務内容や問題、必要となる日本語や日本人とのコミュニケーションで気を付けていることや生じたトラブルを知り、就労者に対して必要な日本語教育の内容や接し方を考える。 	知識:(3) 技能:(7),(8) 態度:(1),(3),(5),(8)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」
第5回 9/28 (土)	13	【事例研究】外国人介護人材の就労と日本語教育	白井孝子 東京福祉専門学校 副学校長	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人介護人材の受入れに関する社会背景や制度、介護福祉士の資格や在留資格、業務内容について理解する。 ・介護施設の利用者やそこの一日の生活、介護知識・技術について知り、日本人職員とのコミュニケーション場面において求められる日本語能力について理解した上で、介護職種を事例に職種別日本語教育をどのように実践するか考える。 	知識:(1),(2),(3),(5) 態度:(1),(3),(5),(7),(8)
	14	【事例研究】介護人材向けの専門日本語教育－介護の就労者向けウェブ教材「にほんごをまなぼう」を例に－	小林亨 日本介護福祉士会 国際介護人材支援チーム 主査	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト「にほんごをまなぼう」に実際にアクセスし、同教材の対象者、構成、内容、種別(外国人向け学習コンテンツ・日本人向け手引き)を理解する。 ・外国人介護人材向けのカリキュラムやコースデザインを作成する際に、同ウェブサイト教材リソースとして効果的に活用する方法を考える。 	知識:(6),(7) 技能:(3) 態度:(4)
	15	就労者に対する日本語教育実践現場－同研修プログラム修了者による発表②－	本研修プログラム 2023年度修了者 三浦千尋	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者に対する日本語教育の実践現場での取り組みや工夫、課題や問題を知る。 ・修了者が本研修プログラムで学んだことをどのように活かしているかを知ること、研修の活用方法をイメージする。 	知識:(6) 技能:(5) 態度:(1)
	16	意見交換交流会②	受講者間	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループに分かれて修了者プレゼンの感想を伝え合うとともに、自身の日本語教育実践での取り組みや課題を紹介する。 ・研修プログラム途中における振り返りを受講者間で行う。 	知識:(6) 技能:(5) 態度:(1)
	17	現場の介護施設担当者・外国人介護人材の声を聞く①・②	①健祥会グループ ※事前収録動画の視聴のみ ②社会福祉法人 旭福社会 特別養護老人ホーム やすらぎ園 ※事前収録動画の視聴のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人介護人材の受入施設の日本人担当者の語りを聞き、外国人材の受入れに至った経緯や目的、日本語の必要性やそのレベル、外国人受入れにかかる取り組みや問題について知り、日本語教師としてできることを考える。 ・介護施設にて就労する外国人介護人材を事例として、来日経緯や目的、就労現場での業務内容や問題、必要となる日本語や日本人とのコミュニケーションで気を付けていることや生じたトラブルを知り、就労者に対して必要な日本語教育の内容や接し方を考える。 	知識:(3) 技能:(7),(8) 態度:(1),(3),(5),(8)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」
第6回 10/5 (土)	18	技能実習・特定技能のための仕事・生活の日本語教育 - 教材『あたらしいじっせんにほんご』を例に -	新野佳子 国際日本語普及協会 (AJALT)	<ul style="list-style-type: none"> 教材『あたらしいじっせんにほんご』を実際に手に取り、同教材の構成や特徴、教え方について理解し、就労者に対する指導法の一つとして同教材の活用方法を理解する。 グループディスカッションを通して就労者に対する日本語教授法について考えを深める。 	知識:(6) 技能:(1),(2) 態度:(1)
	19	就労現場でのコミュニケーション能力を高めるための指導法 - 教材『ゲンバの日本語』を例に -	内海陽子 AOTS日本語教育センター 主任	<ul style="list-style-type: none"> 教材『ゲンバの日本語』を実際に手に取り、同教材の対象者と教材の概要と特長、構成について理解する。 AOTSの技術研修生向けの日本語教育を例として、コミュニケーション能力を高める指導方法、教材活用を理解する。 教材理念に基づく対学習者・教師間の対応について考えを深める。 実際に指導する際の留意点について考え、同教材の効果的な指導法の理解を深める。 	知識:(5),(6) 技能:(1),(2),(4) 態度:(1),(2)
	20	技能人材と会話学習 - コミュニケーションストラテジーが学べる会話を考える -	飯塚知子 AOTS日本語教育センター	<ul style="list-style-type: none"> 技能人材が就労現場で必要とされる日本語や日本人社員とのコミュニケーションの特徴を理解した上で、どんなコミュニケーションストラテジーが必要かを考える。 就労現場に必要なコミュニケーションストラテジーを探すことができ、会話を教える際に取り入れることができるようになる。 コミュニケーションストラテジーを意識した会話学習のための学習活動デザインの考えを深める。 	知識:(5),(6) 技能:(1),(2),(4) 態度:(1),(2)
	21	コミュニケーション能力を養成する短期速習の教授法 - AOTSでの技術研修生向け日本語研修をモデルにして -	矢島康江 AOTS東京研修センター 日本語コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> 就労現場で求められるコミュニケーション能力とは何かを知り、その能力を短期間で養成するための指導のポイントをAOTSの実践例を通して学ぶ。 本科目で学んだ「話す力・聞く力を短期間で伸ばす指導法」を受講者各自の教育現場でどのように応用し実践できるかを考える。 	知識:(6) 技能:(1),(2) 態度:(1)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」
第7回 10/19 (土)	22	就労者に対する自律学習支援とスローラーナーへの対応 -AOTSでの技術研修生やEPA候補者への実践を事例にして-	常次亨介 AOTS日本語教育センター センター長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者向け日本語教育における自律学習支援の必要性を理解し、AOTS の事例をもとに自身の教育実践でどのような支援ができるかを考える。 ・AOTSの日本語研修を事例に、日本語学習に困難を抱える就労者の状況を理解し、スローラーナーへの対応や支援を考える。 	知識:(7) 技能:(1),(2),(3) 態度:(1),(4),(6)
	23	就労者の日本語学習に対する評価 -行動能力目標とパフォーマンス評価-	内海陽子 AOTS日本語教育センター 主任	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語教育の参照枠」及び「就労Can do」について理解を深めた上で、それを就労者に対する日本語教育に応用する方法についてAOTSの事例を通して理解する。 ・就労現場で必要な行動能力目標とそれに対応するパフォーマンス試験を行うにあたり、それぞれの就労現場に即した試験の実施に関する検討・計画についての考えを深める。 	技能:(6),(7),(8) 態度:(3),(6),(8)
	24	企業に伝わる報告書作成	矢島康江 AOTS東京研修センター 日本語コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育を専門としない企業や職場関係者に、就労者の日本語学習状況や学習の成果、継続学習のアドバイスとして何を伝えるか、どうすれば伝わるかを理解する。 ・クライアントが理解できる報告ができるようになるため、報告書サンプルをもとに日本語教育の専門用語を非専門家にも理解できる言い換え・書き換えの修正練習に取り組む。 	技能:(6),(7),(8) 態度:(3),(8)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」
第8～11回 10/26(土) 11/9(土) 11/23(土) 11/30(土)	25	技能人材向けの コースデザイン (導入)	澤田幸子 合同会社おおぞら日本語 サポート 副代表	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の演習で就労者に対する日本語教育コースデザインを作成するために必要なニーズ及びレディネスの分析・検討、目標設定などの基礎知識や重点課題、注意点を理解する。 ・本研修の各科目で学んだ知識及び技能をコースデザインに応用する意識を高める。 	技能:(1),(2),(5),(7),(8) 態度:(1) ※その他の知識・技能・態度の資質・能力も包括的に内包。
		技能人材向けの コースデザイン (演習)	澤田幸子 合同会社おおぞら日本語 サポート 副代表 小谷昌彦 合同会社おおぞら日本語 サポート 代表 澤田竜人 ECC国際外語専門学校 留学生事業部 副学科長兼教務課・ 進路課責任者 高馬絢子 ISI ランゲージスクール 京都校	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の各科目で得られた基礎知識や指導法、教材リソース等の内容を応用し、ある就労者を想定したコースデザイン作成の活動を通して、実際に技能人材への日本語教育内容や評価・フィードバック方法、シラバス・カリキュラムデザインを検討する。 ・他の受講者との協働を通して多様な日本語教育観に触れ、自身の日本語教育観や教育実践を内省し発展させる。 	
第12回 12/7(土)	26	研修の振り返り、 ネットワークづくり	杉山充 AOTS日本語教育センター センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講を通して得られた自身の学びを振り返り、それを受講者間で共有することで学びを再構成する。 ・今後、就労者に対する日本語教育に携わる上で、どのような学びが必要かを考える。 ・研修受講後における就労者に対する日本語教師に求められる資質・能力について自己評価を行う。 ・研修終了後も受講者間のネットワークを維持し、講師間のつながりの中で学び続けることの重要性を理解する。 	技能:(5) 態度:(7)

2. 各研修の概要

○受講者募集

AOTSウェブサイト内に本事業に関するホームページを作成し、募集にかかる募集要項、フライヤー、研修カリキュラム、日程時間割、受講申込フォーム等を公開した。<https://www.aots.jp/jp-learning/jt-training/2024/>

募集方法は右記のとおり、複数ツールを通して日本語教育や教師研修に関連する機関・個人・団体等に行った。

6月1日に募集開始し、6月30日までに定員100名を超える141名の応募を受けた。その後、受講者選考を行い定員の100名を確定。その後、研修開始直前の辞退者が出て、受講者は計99名となった。

募集広報媒体	対象・媒体内容
メール	各自治体、国際交流協会、日本語教師会
	日本語教育関連機関・団体
	AOTS事業の関係先
メールマガジン	AOTS登録日本語講師
	日本語教育学会メルマガ
オンライン広報	AOTSメルマガ
	2024年日本語教育学会春季大会賛助会員ブース 研修プログラム紹介のYouTube動画公開

2024年度 AOTS 研修プログラム 技能人材にフォーカスした 就労者に対する日本語教師初任研修

2024年度 8月31日 ~ 2024年 12月7日

日時 土曜日 am9:00 ~ pm 12:30

形態 全プログラム オンラインで実施

就労者に対する日本語教育に携わりたい・携わっている方のためのプログラム

- 研修者に関する基礎知識を学ぶ
- 研修者としての役割や期待について学ぶ
- 研修者のためのコミュニケーションについて学ぶ

研修料4,000円 (講師料1,000円、教材費3,000円)

申込期間 2024年6月1日 ~ 6月30日

研修プログラムの詳細情報はこちら <https://www.aots.jp/jp-learning/jt-training/2024/>

受講申込みはこちら <https://forms.office.com/commit/7J0ab9>

お問い合わせは下記までお気軽にご連絡ください

03-3888-8250

研修期間 9:00 ~ 12:30 (土曜日)

AOTS 登録日本語講師

研修料 4,000円 (講師料 1,000円、教材費 3,000円)

申込期間 2024年6月1日 ~ 6月30日

広報用フライヤー

土曜日午前の研修

事前視聴動画 × オンラインライブ講義

全国どこからでも参加可能

同じ志の仲間

学会での広報

日本語教育事業のご紹介

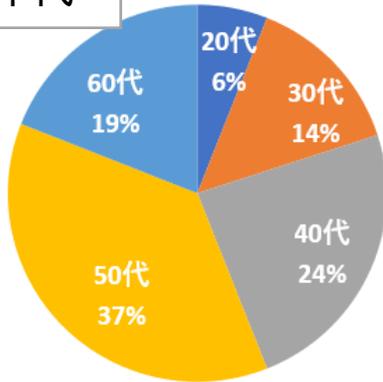
- 参加者募集
- 文部科学省委託事業「就労者に対する日本語教師【初任】研修」
- AOTS登録日本語教師募集・AOTS職員募集

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS) 日本語教育センター

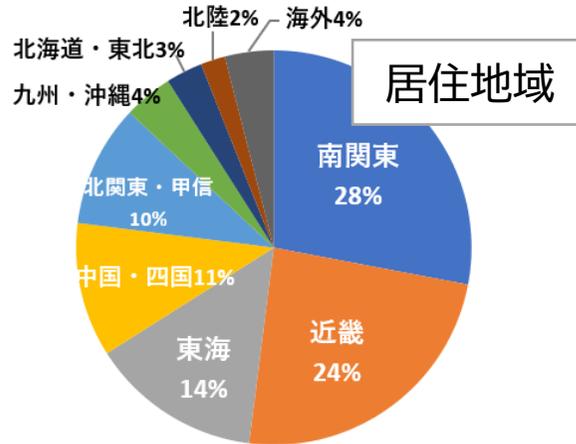
2. 各研修の概要

○受講者99名の属性

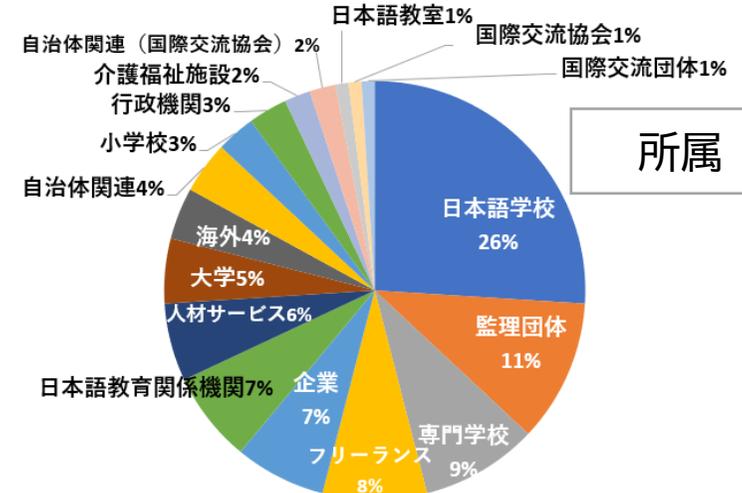
年代



居住地域

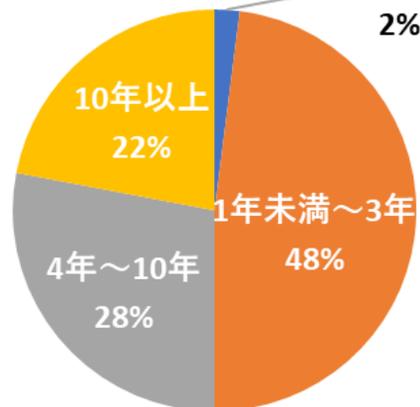


所属

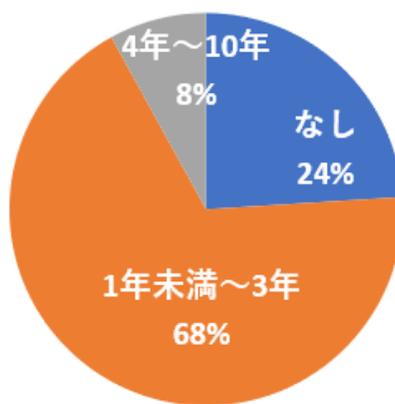


n=99

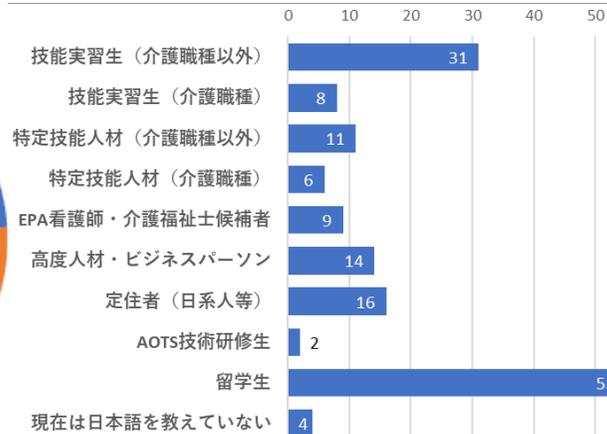
日本語教育歴

なし
2%

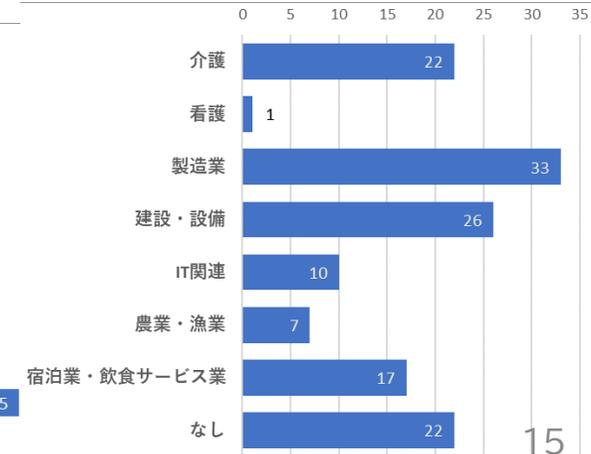
就労者に対する日本語教育歴



現在教えている(今後教えたい)就労者の属性



現在教えている(今後教えたい)「就労者に対する日本語教育」の分野・業種



15

2. 各研修の概要

○研修実施形態

全プログラムオンラインとし、同期型・非同期型を組合わせて実施した。

使用したICTツールと活用方法は下記のとおり。

使用ツール	受講者の活用方法	
同期型(ライブ配信)用 ウェブ会議ツール: Zoom	当日	同期型オンラインライブ講義の受講
オンライン掲示板: Padlet		小グループでのディスカッション内容を全体で共有
非同期型(オンデマンド)用 学習管理システム(LMS): ドコモgacco <small>※LMSは複数業者を検討した結果、「ドコモgacco」を採用した。</small>	事前	事前動画視聴
		講義資料ダウンロード
	事後	出席確認
		各科目の小テスト受験
		各科目の振り返りノート記述
各科目の自己評価・アンケート対応		
当日録画視聴(復習・見逃し配信用)		
Googleクラスルーム	時間外	演習グループ受講者間のコミュニケーションツール

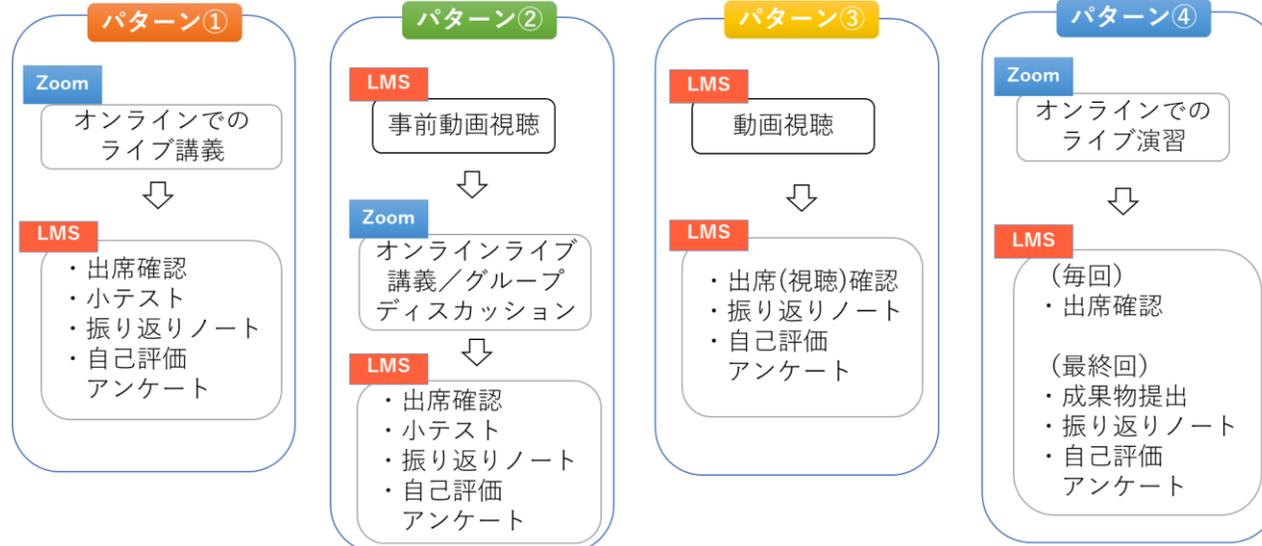
2. 各研修の概要

○学習管理システム(LMS)の活用詳細

★は完了/提出の有無が修了要件に関わるもの

各科目での活用	受講者の取り組み内容
・事前視聴オンデマンド動画★	当日講義受講までに事前動画を視聴し、当該科目に関する知識を得る
・資料配付	事前動画、当日動画のスライド資料のデータをダウンロード
・出席確認★	当日講義の出席ボタンを押す
・小テスト★	各科目に関する正誤問題・多肢選択式の小テストを受験 ※習熟度を高めるため再受験可とした
・振り返りノート★	各科目受講後に気づきや学びを自由に記述 ※スプレッドシートで受講者間で記述内容を共有
・自己評価/アンケート★	各科目のCando自己評価及びアンケートへの回答
・当日講義録画	当日講義欠席者は、見逃し配信用の当日講義録画を視聴 ※当日欠席者は録画視聴しても欠席扱い
・当日講義Q&A補足	当日講義にて時間の都合上、対応できなかった質問への回答を後日確認する
・受講者間ディスカッション	講義や演習に関する受講者間の意見交換のためのフリースペース
プログラム全体に関して	事務局からの発信内容
・お知らせ	事前視聴動画のアップロード連絡など、受講者全体に対する連絡
・時間割表	研修プログラムの全体日程及び時間割表
・お問い合わせ方法	研修に関するお問い合わせのための連絡先掲載
・動画視聴状況	受講者が各自の動画視聴状況を確認
・受講状況	受講者が出席や提出物など、各自の受講状況を確認

各科目の同期型・非同期型の組み合わせパターン



パターン適用の日程

パターン①	パターン②	パターン③	パターン④
8月31日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35		10月5日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35 4限 11:45-12:30	11月9日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35 4限 11:45-12:30
9月7日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35		10月12日 (Empty)	11月16日 (Empty)
9月14日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35 4限 11:45-12:30		10月19日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35 4限 11:45-12:30	11月23日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35 4限 11:45-12:30
9月21日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35		10月26日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35 4限 11:45-12:30	11月30日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35 4限 11:45-12:30
9月28日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40 3限 10:50-11:35 4限 11:45-12:30		11月2日 (Empty)	12月7日 1限 9:00-9:45 2限 9:55-10:40

: 事前動画あり

パターン③ 視聴動画 45分×4本

2. 各研修の概要

○コースデザイン演習について

演習の全体の流れ(導入⇒グループ活動⇒発表)

10/26 (土) 9:00-10:40	コースデザイン導入(指定テキストあり)
10:50-12:30	コースデザイン演習(各クラス・グループに分かれて活動)
11/9 (土) 9:00-12:30	コースデザイン演習(各クラス・グループに分かれて活動)
11/23(土) 9:00-12:30	コースデザイン演習(各クラス・グループに分かれて活動)
12/30(土) 9:00-12:30	コースデザイン発表(各クラスでのグループごとの発表)

クラス・グループ

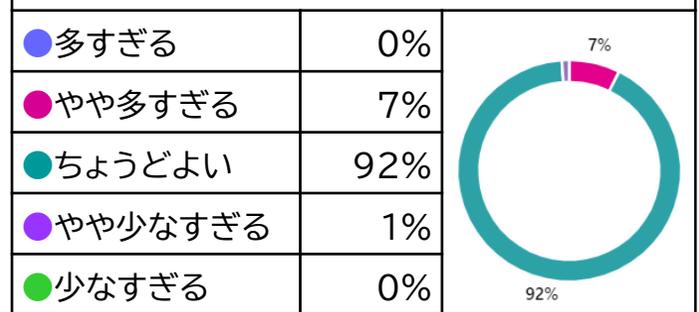
クラス :A, B, C, Dクラス(計4クラス(25名/クラス))※各クラス1名の担当講師配置
 グループ:各5グループ5名で編成 ※端数や受講離脱により人数減のグループあり

演習課題

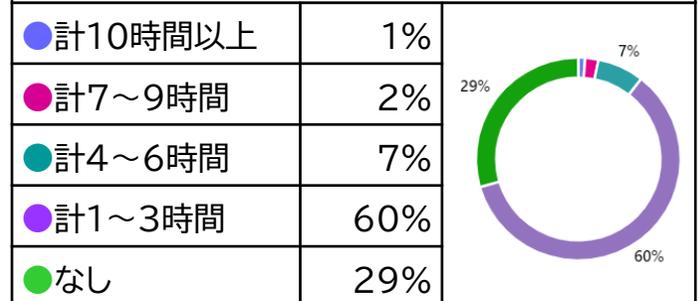
- ・事前に提示された5つの「技能人材に対する日本語研修ケース」からコースデザイン作成の対象とするケースをグループで1つ決める。そのケースに基づき、グループメンバーとのディスカッションを通してグループ共通のコースデザインを作成。
- ・研修プログラム外の時間もグループでの協働によるコースデザイン作成を推奨した。
- ・最終的に完成したグループごとのコースデザイン成果物を11/30に各クラス内(25名)で発表。

※各クラスから優良コースデザインを選定し、AOTSのウェブサイト公開。
<https://www.aots.jp/jp-learning/jt-training/2024/>

演習のグループメンバーの人数(4~5名)はどうか。



プログラム時間外でどのくらいの時間、演習グループメンバーとオンラインで集まりましたか。



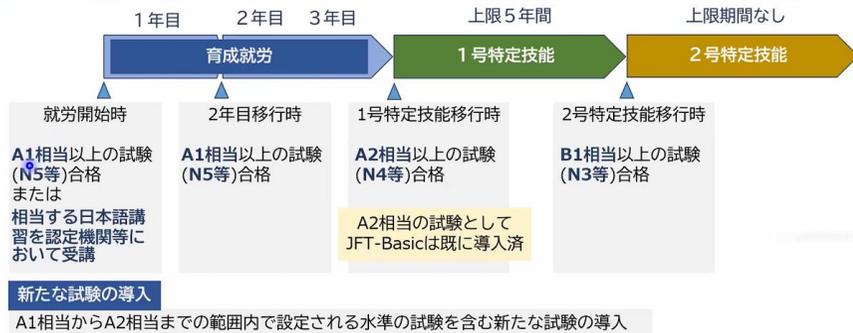
2. 各研修の概要

○研修の様子(講義、全体質疑、グループディスカッション、発表)

講義の様子

おける日本語能力要件

- 日本語能力要件に関する政府案。
- 詳細は主務省令で定められる。
- 新たな日本語試験が導入される方向性。 **いずれも決定事項ではないので注意が必要。**



全体での講義の質疑応答の様子



グループディスカッションの様子



演習でのコースデザイン発表の様子

3. カリキュラムデザイン (学習計画および学習目標)

8) ①

回	授業の内容	学習目標	教材
1	1) 自己紹介: 講師、学習者 2) 日本語能力自己評価 3) ①プレイズメントテスト(N4)(N3)模試 ②ロールプレイテスト	1) ラポール形成 2) 研修開始時に自己評価し、自分の現在地を把握する。 3) プレイズメントテストを行い、既存の知識を評価する。	2) 日本語能力自己評価ツールにほんごチェック! https://www.nihongo-check.bunka.go.jp/ 3) ①プレイズメントテスト(N4)(N3)模試 https://www.jlpt.jp/samples/fort_earners.html ②JFテスト用キットを使用。A2, B1 https://www.jfstandard.jp/f.d/roleplav/ia/render.do

2. 各研修の概要

○研修前・中・後のフォローアップ体制

研修プログラム期間中及びその前後の受講者に対するフォローアップ内容については以下のとおり対応した。

	対応	詳細
研修前	・受講案内	研修日程、カリキュラム、修了要件、指定教材、受講形態、SNSグループ招待等々をPDFにまとめ一斉送信メール連絡及び個別連絡対応
	・学習管理システム(LMS)利用案内	LMS利用開始にあたっての案内文書を一斉送信メール発信及び個別連絡対応
	・LMSの研修開始前の利用	受講者のLMS利用を研修開始の約1ヶ月前に開始し、研修の予習やLMS利用適応時期を設けた
研修中	・Zoomチャットでの質疑応答	講義終盤での質疑応答をチャットでも受け付け、回答しきれなかった質問に対しては、後日、講師からの回答をLMSに記載
	・LMSgacco, Googleクラスルーム	事前動画及び当日録画の配信や提出課題の配信、受講者間連絡など
	・メール連絡	以下を随時連絡 ・事前動画、当日録画アップロード、Q&Aのテキスト公開 ・事前課題の内容まとめ配信、動画視聴、課題提出のリマインド
	・事務局Q&Aの時間枠を設定	・研修期間中に計2回、各1コマの質問受付時間を設定(単位対象外)
研修後	・LMSの研修終了後の利用	受講者のLMS利用を研修終了後も約1ヶ月間は可能とし、研修の振り返りや復習の期間を設けた

2. 各研修の概要

○受講者間ネットワーキング

	研修プログラム期間中		研修プログラム終了後
	研修プログラム時間内	研修プログラム時間外	-
受講者間ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> 各科目でのグループディスカッション Padletへのディスカッション内容の投稿 意見交換交流会 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者企画の交流会(計3回実施) ①9/27(金)20:00-21:30(25名参加) ②10/26(土)20:00-21:30(20名参加) ③11/30(土)13:30-15:00(20名参加) ディスカッショントピック:「地域日本語」「企業を意識した日本語」「年少者向け」「フリー」 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者企画の交流会 ①12/7(土)10:45-12:00(~20名) ②2/7(金)13:30~15:00(~10名)
演習での協働	<ul style="list-style-type: none"> コースデザイン演習での協働 	<ul style="list-style-type: none"> コースデザイン演習グループでの時間外活動の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 演習メンバーとのメール等での個人的なネットワークを継続
SNSでのネットワーキングと継続交流	-	<ul style="list-style-type: none"> Facebookグループ等のSNSでのやりとり 	<ul style="list-style-type: none"> Facebookグループ及びLINEグループでのコミュニティを継続



Googleクラスルーム



Facebookグループ



Padlet

2. 各研修の概要

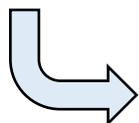
○修了者フォローアップ 前年度修了者の一部科目参加（事前申込人数36名）

	日時	科目	参加人数	修了者からの感想
①	9月7日(土) 9:00-9:45	職種・職位によって 求められる日本語教育(杉山充)	26名	<ul style="list-style-type: none"> ・「育成就労」についてあまり知らなかったなので、知ることができてよかった。 ・技能実習制度と育成就労制度の位置付けの違いがよく分かりました。 ・昨年から制度も変わり、今後、日本語教師に求められることも変わっていくと思います。ぜひ修了者も年度をまたいで受講できる研修をご検討いただきたいです。
②	9月7日(土) 9:55-10:40	外国人就労者に関わる 制度(折茂純哉)		<ul style="list-style-type: none"> ・実務を行っている折茂先生のお話が伺え、勉強になりました。今後の動向についてもお話があり、気をつけて情報収集を続けて行きたいと思いました。 ・技能実習と育成就労制度の違いや今後想定される課題などについて理解できた。
③	9月14日(土) 10:50-11:35	就労者に対する日本語 教育実践現場－同 研修プログラム受講 者による発表①－	14名	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の学習者の立場をよく考えた授業を展開されており、素晴らしいと感じました。今後、自らの授業にもそれらのノウハウを取り入れて、効果の上がる授業を目指したい。 ・実際に現場で教えている方が①<u>どうこの仕事に関わったのか</u>、②<u>今現在、実際に動いている仕事はどのような流れなのか</u>③<u>抱えている課題</u>ということが垣間見れてよかったです。
④	9月14日(土) 11:45-12:30	意見交換交流会①		<ul style="list-style-type: none"> ・「留学も技能実習も日本語の支援部分において同一の問題を抱える部分があること」など、「いま」この国の中でこの制度を使った来日者、それを取り巻く私たちの現実についてお互いを感じていることを素直に話すことができる場があってよかったと感じました。今後も、研修が行われている時期に限らず、<u>素朴な話ができる場があることが、仕事を</u>する私たちの心理的安全性や考えの拠り所、止まり木としての働きも持つのではないかと感じました。
⑤	9月28日(土) 10:50-11:35	就労者に対する日本語 教育実践現場－同 研修プログラム受講 者による発表②－	12名	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者が受入れ企業とのコミュニケーションを十分に取しながら、かつ、学習者の置かれた状況を考えながら日本語指導を進めておられるのは素晴らしいと感じました。日本語教師が、企業と学習者の橋渡しになるという視点は重要だと改めて感じました。 ・会社と外国人就労者の間で文化習慣や考え方の調整や相談業務を担う日本語教師の役割を理解できました。
⑥	9月28日(土) 11:45-12:30	意見交換交流会②		<ul style="list-style-type: none"> ・就労者への日本語教育を実践されている方の実際の話が聞けて良かったです。学習者の日本語レベルや日本語を学ぶ動機も様々で、学習者のレベルにあった授業の進め方には苦勞と工夫があると感じました。また、<u>学習意欲のある学習者に対しては日本語を教えるのではなく、日本語の学習方法を教えて成功したと話があり、これも参考にしたい</u>と思いました。

○修了者プレゼン「就労者に対する日本語教育実践現場－同研修プログラム受講者による発表－」

日時	発表者	携わっている教育
9月14日(土)10:50-11:35	茂田井純子	技能実習生 入国後講習
9月28日(土)10:50-11:35	三浦千尋	専門学校留学生を対象にした就労前教育

発表の流れ・内容(目安)			
3限目 45分	(20分)	プレゼン発表	<ul style="list-style-type: none"> ○所属機関の概要(主な日本語教育事業など) <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介、所属先の主な日本語教育事業の紹介など ○日本語教育実践の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者(目的、期間、国籍、在留資格など) ・日本語レベル、教材、教育内容 ・就労向けならではの工夫した取り組みなどあれば ○昨年度研修プログラム受講とその後 <ul style="list-style-type: none"> ・受講のきっかけや目的、受講してどうだったか ・学んだことで現在も活かしていること ・ご自身の考え方や意識の変容などあれば ○直面している問題や課題 <ul style="list-style-type: none"> ・就労者向け日本語教育という点での課題や問題、それに対する取り組みや工夫など(未解決でもok)
	(20分)	質疑応答	(受講者から質問)
	(5分)	まとめ	(予備の時間も含めて)



その後の4限目の「意見交換交流会」では、この修了者プレゼンの内容をもとに、昨年度修了者含む受講者間で自由度の高いディスカッションを行った。

2. 各研修の概要

○研修プログラム 受講者に対する評価

研修プログラム 評価						
		評価内容		評価方法	詳細	修了要件
研修プログラムに関する理解度・習熟度	参加	1	出席率	出欠確認	動画視聴 & 講義当日のオンライン出席 ※当日欠席の場合は、当日録画を後日視聴しても欠席扱い	事前動画視聴を含む全プログラムの2/3以上に出席していること、且つ、コースデザイン演習においては当該科目の全体の2/3以上に出席していること
	各科目	2	各科目の理解度	小テスト	正誤・多肢選択式問題で講義内容の理解度を確認	全科目の小テスト受験及び正答率80%以上まで習熟度を高める (=AOTSが定めた到達目標において一定基準以上の評価に到達すること)
		3	各科目の理解度	各科目のCandoチェックシート	各科目内容の重点ポイントについてどれくらいできるかをCando自己評価	全科目の自己評価及びアンケート回答
				振り返りノート	各科目の振り返りや内省ツールとして感想や疑問を記述し、それを各自ポートフォリオとして活用	全科目の振り返りノートの提出
	4	各科目の応用力	演習での成果物	各グループで作成したコースデザインを提出	グループ共通の成果物を提出	
プログラム全体	5	「資質・能力」の習得度	事前・事後自己評価	「養成研修・報告」の「求められる資質・能力」をCando自己評価でチェック	事前・事後による自己評価を提出	



○研修プログラム 受講者の習熟度

受講者による各科目のCando「目標①②」と「各科目満足度」の五段階自己評価を実施した。以下の表は修了者95名の全体平均であり、本研修で定めた到達目標①～⑤に対して、いずれの目標も4以上の結果となり、一定以上の研修効果を確認することができた。

n=95

科目	目標①	目標②	各科目満足度	到達目標	目標到達度	小テスト
就労者に対する日本語教育概論	4.34	4.13	4.67	①技能人材を取り巻く制度や社会の実情、産業界のニーズを理解することができる。	4.21	99.9%
外国人受け入れ政策と日本語教師	4.22	3.85	4.48			
外国人就労者に関わる制度	3.93	4.00	4.44			
職種・職位によって求められる日本語教育	3.86	3.90	4.65			
【事例研究】外国人介護人材の就労と日本語教育	4.02	4.11	4.61			
就労現場における異文化受容・異文化適応	4.11	4.02	4.52	②職場で生じる言語・文化的な問題を理解し、技能人材や企業に寄り添うことができる。	4.36	100%
現場の企業担当者・外国人就労者の声を聞く	4.17	4.13	4.63			-
現場の介護施設担当者・外国人介護人材の声を聞く	4.24	4.19	4.70			-
就労者に対する日本語教育実践現場-修了者による発表-	4.29	4.29	4.72			-
意見交換交流会	4.44	4.49	4.51			-
技能実習・特定技能のための仕事・生活の日本語教育	4.15	4.19	4.49	③業務遂行のための日本語教育を実践するために必要な情報を自ら収集し、それを活用できる。	4.24	99.9%
生活・就労者の日本語教育	4.08	4.20	4.53			
生活・就労者の日本語教材『いろいろ生活の日本語』を例に	4.08	4.07	4.46			
【事例研究】介護人材向けの専門日本語教育	4.13	4.06	4.52			
職種別の日本語の指導法	4.06	3.98	4.45			
技能人材と語彙学習	3.91	4.13	4.55			
就労現場でのコミュニケーション能力を高めるための指導法	4.22	4.24	4.53			
技能人材と会話学習	4.15	4.11	4.55			
コミュニケーション能力を養成する短期速習の教授法	4.11	4.12	4.32	④技能人材や企業のニーズに応じたコースデザインを行うことができる。	4.56	100%
技能人材向けのコースデザイン:演習①～④	4.18	4.55	4.72			-
研修の振り返り、ネットワークづくり	4.60	4.74	4.59	⑤技能人材や企業に対して日本語教育の必要性や学習成果等をわかりやすく伝えることができる。	4.22	99.7%
就労者に対する自律学習支援とスローラーナーへの対応	4.32	4.19	4.63			
就労者の日本語学習に対する評価	3.89	3.74	4.36			
企業に伝わる報告書作成	4.11	4.24	4.53			
平均	4.03	4.03	4.40		4.31	99.9%

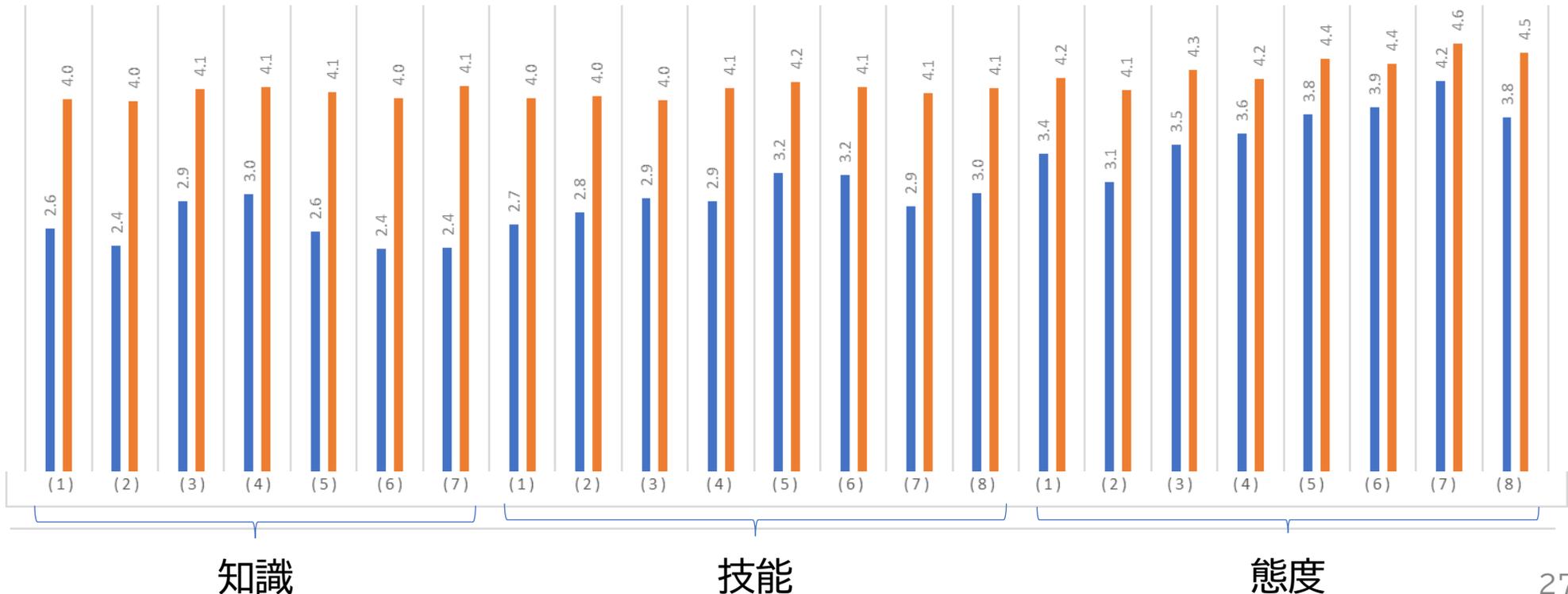
2. 各研修の概要

○「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」に関する研修プログラム受講前・受講後における自己評価の比較

研修受講者に対して、研修受講前と受講後に「資質・能力」の自己評価アンケートを実施した。その結果、知識・技能・態度いずれの項目においても修了者の全体平均値は、受講前よりも受講後に向上した結果となった。

■ 受講前アンケート ■ 受講後アンケート
回答者：99名平均値 回答者：95名平均値

各項目の記述文は「養成・研修報告」p.28参照
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/r1393555_03.pdf



2. 各研修の概要

「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」の習熟度に関する評価・判定・フィードバック

1)	「求められる資質・能力」に対する受講前・受講後の自己評価結果を比較し、受講者各自が自身の学びや成長を振り返る機会を設けた。
2)	本研修で学んだ内容を活用して作成したコースデザイン成果物に対し、他グループの受講者からのコメントを受けて内省を深めた。また、担当講師からのコメント評価を行うことを通して、研修全体のフィードバックとした。
3)	研修プログラム最終科目の「研修の振り返り」において、受講者自身の学びや気づき、意識の変容を振り返り、グループで話し合う時間を設けた。
4)	また、上記3)に加え、最後の振り返りノートの記述テーマとして、①受講を通して得られた最も大きな学び、②受講者自身の日本語教育観や就労者向け日本語教育に対する考え方についての意識の変容に関する内省のための記述機会を設けた。

研修プログラムを通じた受講者の意識の変容

・	実習生の生活を入国から帰国までのすべてのステージにおいて支援できることは監理団体職員としての強みだと実感しました。日本語教育だけでなく実習生を多文化共生社会の中の一員であると捉え、実習生自身が日本においてストレスなく、豊かに生活していけるような支援をしたい。
・	自身の日本語教育観としては、今までは文法や語彙の導入方法や応用方法など、細部の技術的なものをもって日本語教育に携わっていると考えていたが、今回の研修で一からコースデザインをするにあたり、全体的な、俯瞰したものの見方をし、学習者の将来像を見渡す力も日本語教育の重要な要素であると感じ、新しい気づきに繋がった。また、このような指導が多文化共生社会の一助になり、ひいては自国や他国の発展につながり相乗効果が望まれるという意識が生まれた。
・	就労者、技能人材として入国してくる彼らに対して、何をどのように、どんな順番で指導していくか、この研修で学び得たものである。これを現職場で留学生に対しても、うまく活用した方がいいと思うようになった。それは自分の中に、共生社会を目指したいと思う気持ちが根付いたからだと思う。
・	これまで「聞く、話す」などのコミュニケーション中心の日本語の重要性は認識していても、どうしても試験対策メインになってしまっていた。今後もJLPT対策をやらないという選択肢は取れないが、可能な範囲でcandoを意識したコミュニケーション指導を試行してみたい。

研修を通じて得られた学び

<p>教材・ 教授法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者向けの教科書「ゲンバの日本語」などの構成が留学生用の文法積み上げ式とは異なり、必要なものから教えていくというのは目から鱗でした。 ・スローラーナーに対して研修で学んだ「既習文型の振り返り方」や「発話練習のポイント」を参考に個別のサポートを取り入れるようになりました。具体的には、短いペア活動や復習タスクを活用し、学習者の理解を深めながら進めています。 ・実戦ですぐに使える知識や擬似体験を得る機会を得られたことが小さな自信となり、就労者にオンラインで教えるお仕事をいただくことができた。経験がないからと臆病になっていたが、学習者と共に学びながら今後も一歩ずつ進んでいきたい。 ・就労者の日本語教育では、「教える」こと以上に「使える」ことを重視し、行動中心のタスク型学習や、現場で直面する具体的な課題解決に役立つ教育内容が求められることを学びました。
<p>コース デザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者に対する日本語教材と日本語の教え方、コースデザインの考え方が学びにつながりました。日本語学校で実践してきた自身の授業やカリキュラム作りに多様性を持たせることができるようになったと思います。 ・日本語指導をパターン化せず丁寧なコースデザインをして、就労者それぞれの置かれている立場、就労者と受け入れ側企業が必要とする日本語に目を向けて、指導をしていこうと思います。 ・研修で学んだレディネス、ニーズ、学習目標、授業時間数などを考慮したコースデザインの方法は、週5コマある自由な学習時間の計画を立てる際に非常に役立っています。
<p>ネット ワーキング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ひとりでは気づかなかった点や考え方など、他の方々との取り組みを通して広い視点を持つことができました。また、就労に関する現場からの声を他の受講者の方々含めたくさん聞くことができ、実際の問題点・改善点・課題等がより明確となり、大きな学びとなりました。 ・この研修やZoomを使った交流により全国の方々と話すことで様々な情報が得られ、視野が広がり、働いている場や学習者の状況、指導の在り方は違えども、そのよいところを日々の指導に役立てようとするようになった。 ・グループで話しながら、進めていったことで、自分の意見を肯定してもらえたり、逆に反対の意見をもらえたりしたことで、自分自身の考えを増やせたり、自信にもつながりました。
<p>日本語 教師の 役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は授業を進めるだけでなく、学習者と企業等をつなげる役割を担うこと。 ・周囲の日本人も含め、皆が安心して充実した暮らしができるように、そのきっかけを作ることが地域の日本語教師の役割。
<p>企業等 との連 携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をより実践的に行うためには、専門用語や定着させてほしいこと、何を優先するのかなど企業側のニーズを細かく把握することが重要であり、企業側と一緒に協力しながら学習を進めていくことが重要だと感じました。 ・企業側との連携の重要性にも気付きました。現在は学習者の依頼元に伝える形で報告書を書いています。 ・これまで県内のある日本語教育空白地域で、一人で日本語教育に取り組んでいましたが、最近、県や市町村と意見交換ができるようになりました。

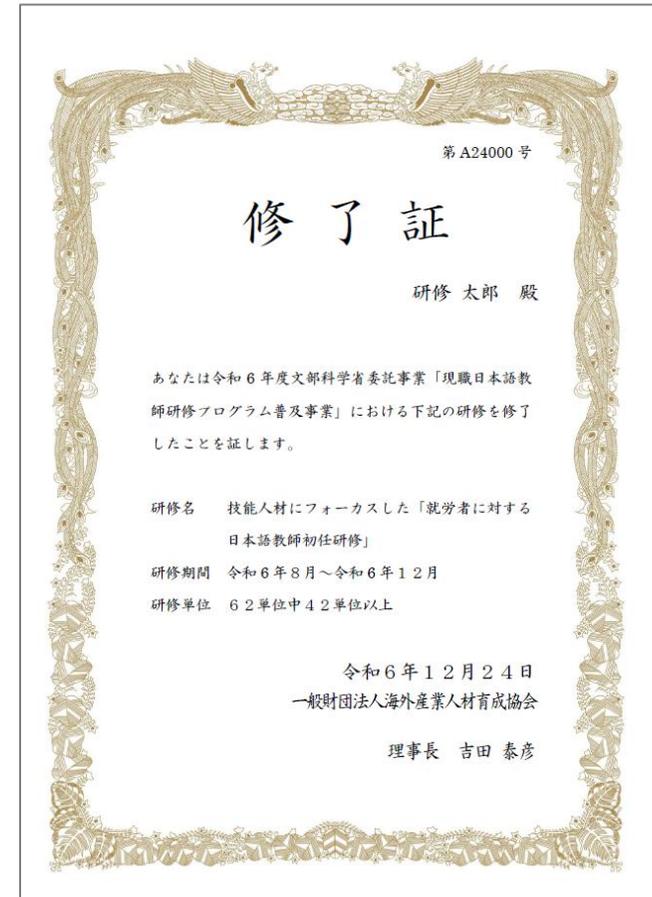
2. 各研修の概要

○修了者について

研修プログラムの申込・受講・修了者の各人数は以下のとおり。

2024年	申込	確定	事前 辞退	受講者	途中 辞退	未修了者	修了者
6月	141名	-	-	-	-	-	-
7月	-	100名	-	-	-	-	-
8月	-	-	1名	99名	-	-	-
9月	-	-	-	-	1名	-	-
10月	-	-	-	-	1名	-	-
11月	-	-	-	-	-	-	-
12月	-	-	-	-	-	-	-
計	141名	100名	1名	99名	2名	2名	95名

6月上旬に募集開始し、1ヶ月間で141名に到達。その後、研修開始直前の辞退者が出て、受講者は計99名となった。同99名のうち、研修終了時に修了要件を満たした者は95名となり、右の修了証を発行した。



2. 各研修の概要

○修了者進路アンケート「今後の就労者に対する日本語教育についての関わり方」（修了時点）

(1) 就労者に対する日本語教育への関わり方について		n=95
①	以前から関わっており、これからも関わる予定。	63%
②	関わっていなかったが、研修参加中または研修参加後に関わるようになった。あるいは関わる事が決まっている。	9%
③	関わっていなかった。これからは関わりたいが、未定。	22%
④	以前から関わっていない。これからも関わりたくない。	0%
⑤	その他*	5%

(単位:人/複数回答可)

①日本語教育内容
 技能実習生 介護職種以外(31)
 技能実習生 介護職種(14)
 特定技能人材 介護職種以外(17)
 特定技能人材 介護職種(9)
 EPA看護師・介護福祉士候補者(9)
 高度人材・ビジネスパーソン(16)
 定住者(日系人等)(11)
 AOTS技術研修生(3)
 就職を希望する留学生(16)
 その他(6)

②日本語教育内容
 技能実習生 介護職種以外(3)
 特定技能人材 介護職種以外(5)
 高度人材・ビジネスパーソン(1)
 AOTS技術研修生(1)
 就労を希望する留学生(3)

③日本語教育内容(希望)
 技能実習生 介護職種以外(13)
 技能実習生 介護職種(11)
 特定技能人材 介護職種以外(14)
 特定技能人材 介護職種(13)
 EPA看護師・介護福祉士候補者(10)
 高度人材・ビジネスパーソン(11)
 定住者(日系人等)(12)
 AOTS技術研修生(7)
 就職を希望する留学生(16)
 その他(2)

*⑤「その他」に関する記述内容:

- ・以前関わっていたが、現在は関わっていない。今後関わる意思はあるが、未定である。
- ・数か月前まで就労者の授業を担当していましたが、今はない状況です。
 これまで就労者の日本語教育に関わってきましたので、今後も続けるつもりです。
- ・本研修参加前に就労者に対する日本語教育に関わっており、現在はワーキングホリデーで農業分野のボランティアをする人たちの日本語教育に関わっている。
 色々なフィールドの方たちの交流があるので、いつでも対応できるようにしておきたい。
- ・今は留学生の日本語教育に携わっていますが、来春に新たに就労者向け日本語教育に携われたらと思っています。
- ・適切な選択肢がなかったため

○受講者による「振り返りノート」から一部抜粋

- ・私は来年から青年海外協力隊として2年間東南アジアに行くが、帰国後は本研修で学んだことを活かして就労者向けの日本語教育に携われたらいいと思う。

2. 各研修の概要（その他関連する取組）

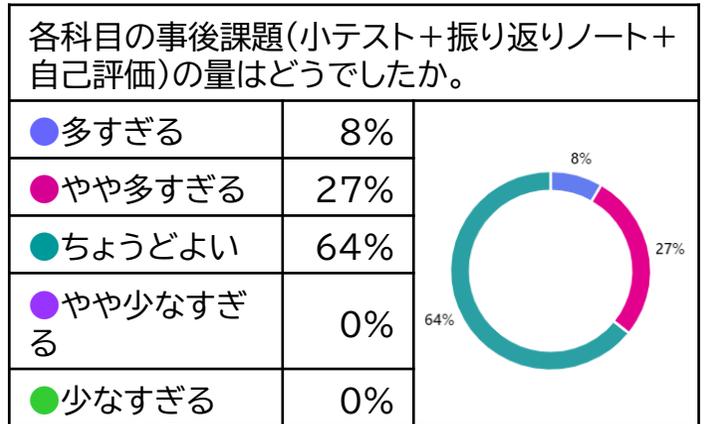
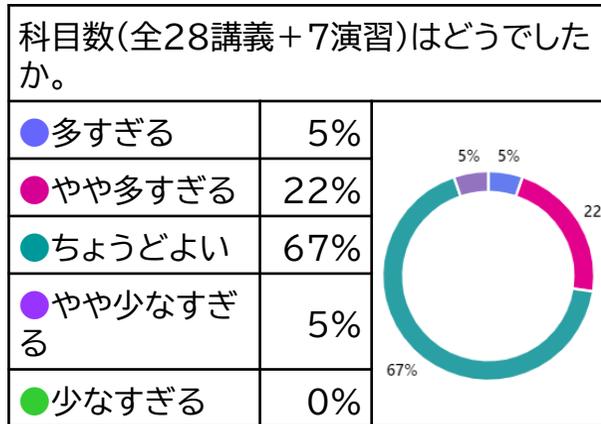
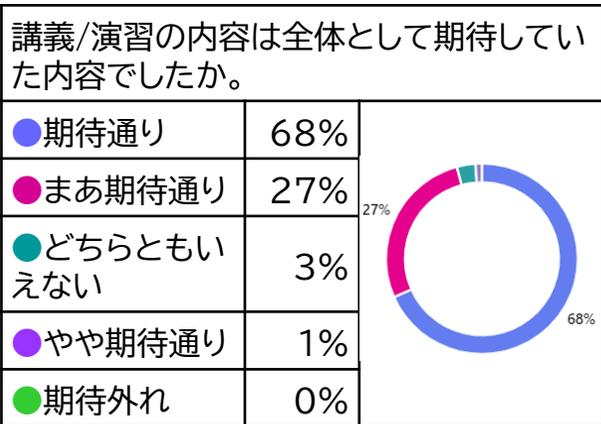
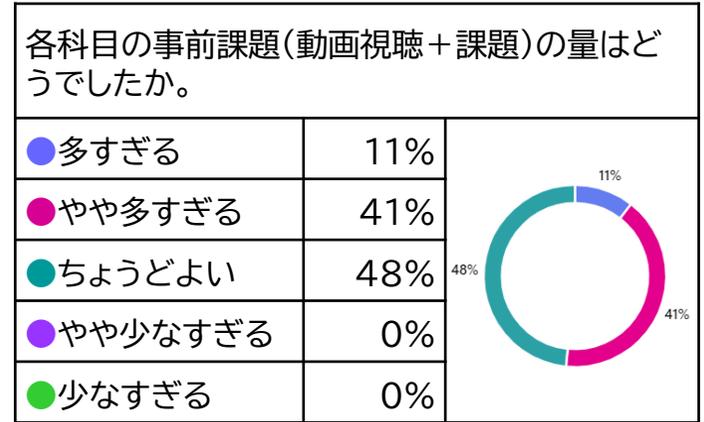
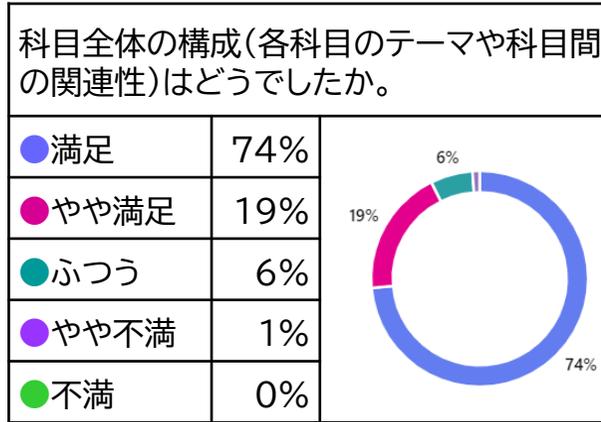
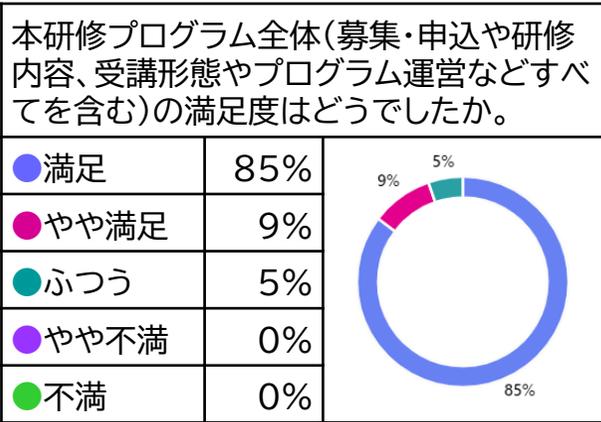
○持続可能な研修プログラム実施のための取組

研修を持続させるための基盤整備	
配信用動画作成と学習管理システムの活用	オンデマンド配信用の最新動画を作成し、研修の一部を非同期型研修にすることで、受講者の拘束時間の削減を図った。また、学習管理システム(LMS)を活用して、オンデマンド配信用動画を含めた非同期時の受講管理を行う研修基盤を構築した。さらに、見逃し配信として当日欠席者向けに講義録画をLMSにて配信した。 ⇒今年度は、LMSの利用方法に関する説明や質疑応答の時間を別途設け、受講者の受講基盤の理解促進を行ったことで、スムーズで効率的な研修プログラムの運営につながった。
ネットワーク構築と修了者フォローアップ	本研修プログラム用のFacebookグループに今年度受講者を招待し、研修期間中に受講者・過年度修了者・講師・事務局のネットワーク維持・拡大を図った。また、過年度修了者のフォローアップとして一部科目への参加可としたほか、修了者と今年度受講者の意見交換交流会の場を設ける取り組みを行った。 ⇒今年度受講者の6割以上が同Facebookグループに参加しFBグループの拡大につながった。また、修了者2名による就労者に対する教育実践の事例紹介プレゼンを科目に取り入れるなどの取り組みも行った。
研修成果の普及	
一部科目の一般公開	AOTSウェブサイトにて研修プログラムの一科目「技能人材と会話学習－コミュニケーションストラテジーが学べる会話を考える－」の事前視聴動画及び当日録画を無料公開し、本研修への潜在的な受講希望者の拡充を図った。 ⇒上記の公開と併せて「AOTS教師研修に関するお知らせ受取希望登録フォーム」を展開した結果、登録者数が47名に上り、教師研修に関心の高い潜在的な受講希望者にリーチできた。
成果物の公開	演習における各クラスの優良コースデザイン成果物をAOTSウェブサイトで公開し、研修プログラムの活動内容や様子が一般閲覧者も見られるようにし、コンテンツの活用や事業の普及を図った。
研修プログラム運営マニュアル	持続可能な形で研修プログラムを継続・普及できるよう、運営実施マニュアル更新版を作成した。また、他機関での自主的な教師研修の普及・促進のための参考用として、同マニュアルをAOTSウェブサイトにて公開した。

3. 受講生からの評価

○プログラム全体に関するアンケート結果

研修プログラム終了時に受講者への研修全体に関するアンケートを実施した。回答結果は以下のとおり。 n=95

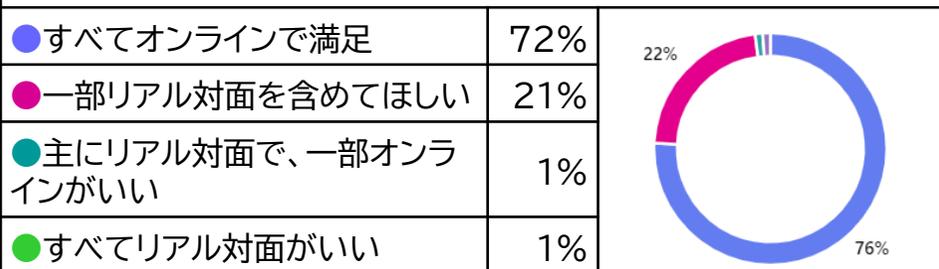


事務局による補足コメント:

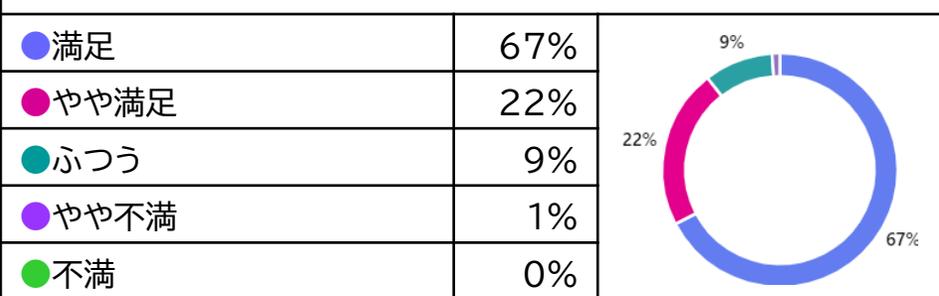
・本研修プログラムの全体構成及び内容に関しては概ね高い満足度評価が得られた。その一方で、科目数や課題量は「やや多すぎる」という回答の割合が比較的高い結果となった。

○プログラム全体に関するアンケート結果

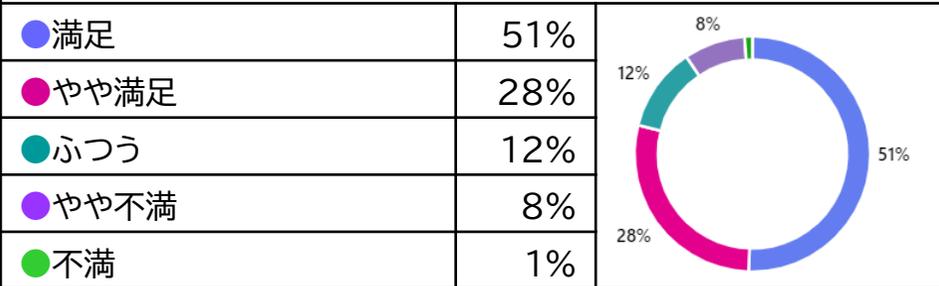
全プログラムLMSとZoomのオンライン研修(リアル対面なし)の実施形態はどうでしたか。



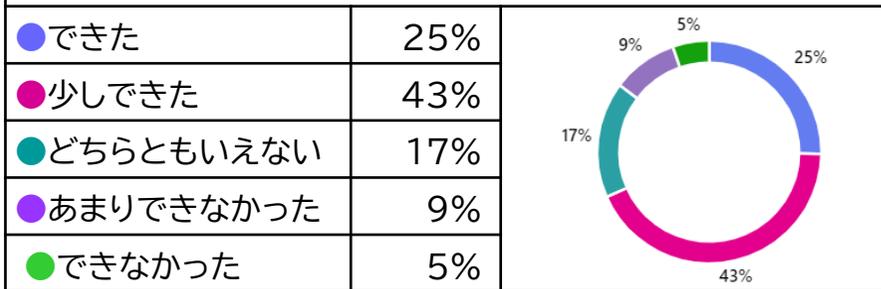
「事前動画+ライブ講義+事後課題」の組み合わせはどうでしたか。



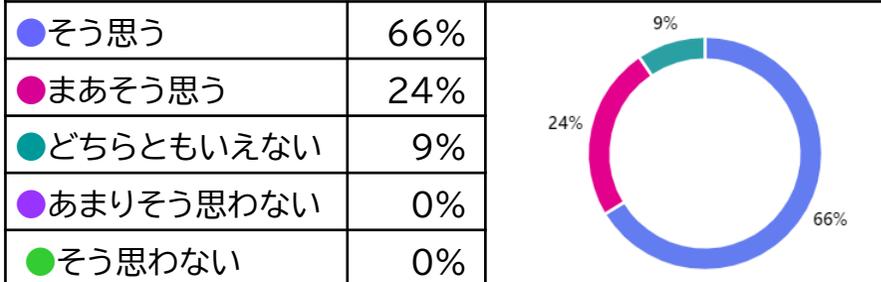
オンラインのためのICTツール(Zoo, gacco, Padlet, Googleクラスルーム)の活用はどうでしたか。



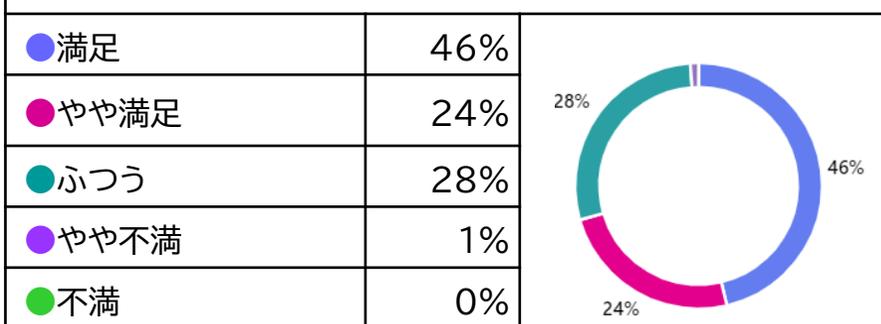
本研修プログラムを通して受講者間のネットワークづくりができましたか。



本研修プログラム後もFacebookグループを通してAOTS事務局・講師・受講者とのネットワークを維持したいですか。



昨年度修了者を含む意見交換交流会はどうでしたか。



4. 成果と課題

○事業成果

本事業全体の目的である①「養成・研修報告」の円滑な普及を促すとともに②日本語教育人材の資質・能力の向上を図る、についての成果は以下のとおり。

①普及	<p>・研修プログラム受講者人数を70名以上確保するという事業の前提において、申込141名、受講者99名、修了者95名という結果となり、初任研修を必要とする日本語教師に広く研修受講機会を提供することができた。</p>
	<p>・また、受講者選考プロセスを導入することで、本初任研修を切に必要とする日本語教師の受講を可能にし、事業及び研修効果の向上につなげることができた。</p>
	<p>・昨年度の本研修プログラム修了者が一部科目に参加できるようにし、育成就労に関する制度等、修了者に対して最新情報を提供し、フォローアップを実施した。</p>
	<p>・今年度の研修科目の一部及びコースデザイン成果物をウェブ公開し、研修の内容や様子がイメージできるようにすることで、本事業の普及とともに教師研修に対する関心を高める取り組みを行った。</p>
②日本語教育人材の資質・能力の向上	<p>・「養成・研修報告」に示された「就労者に対する日本語教師に求められる資質・能力」の向上を図るための研修カリキュラムを実施した結果、受講者による事前・事後の自己評価からは、知識・技能・態度のいずれの平均値も向上に結び付けることができた。</p>
	<p>・講義や演習、交流会などを通して受講者間による学び合いを創出することができたほか、受講者自身の日本語教育観や就労者に対する日本語教育への考え方や意識の変容も見られ、受講者のニーズを満たす優良な研修プログラムを実施できたといえる。</p>
その他	<p>・今年度受講者と昨年度修了者の意見交換交流会の科目を設け、日本語教師の横のつながりを醸成するネットワーキングを促進することができた。その結果、志の高い受講者による研修期間中のプログラム外の受講者間オンライン交流会が実施され、この交流会は研修終了後も継続予定であり、持続的なネットワークにつながることを期待される。</p>

4. 成果と課題

○事業評価

下記①～⑮の事業評価小項目に関する受講者へのアンケート結果、並びに、研修実施の実績内容を5段階で点数化した平均値をもとに大分類(1.妥当性、2.有効性、3.普及度、4.持続性、5.プロセス)の事業評価を行った。

大分類	小分類	事業評価 大項目	事業評価 小項目		小項目 平均値	大分類 評価点 4.6～5.0:A 大いに評価できる 4.1～4.5:B およそ評価できる 3.1～4.0:C どちらともいえない 2.1～3.0:D あまり評価できない 0～2.0:E 全く評価できない	AOTS事務局による 定性評価コメント
1.妥当性	1)研修プログラム 実施	(1)研修内容	①時期・期間・回数	4.41	4.3	B	・昨年度の改善内容を反映させ、より円滑かつ研修効果向上につながる時期や期間、受講形態や学習時間、講師や学習内容とすることで、受講者のニーズや関心に対応した妥当性の高い事業となった。 ・各科目の内容に関する学習時間や課題提出方法や周知の見直し、LMSやGoogleクラスルームのスムーズな運用への改善を図りたい。
			②科目数・科目内容	4.39			
			③日程・時間割	4.38			
			④各科目の担当講師	4.53			
			⑤各科目の内容に対する学習時間	3.90			
			⑥各科目の難易度	5.00			
			⑦実施形態・方法	4.34			
			⑧LMS運用方法	3.71			
2.有効性		(1)研修内容	⑨受講者の各科目の理解度	4.49	4.5	B	・受講者の研修内容の理解や「資質・能力」の習得が確認できた他、受講者間による学び合いを促進することができた。また、受講者自身の意識の変容も見られた。
			⑩「求められる資質・能力」の習熟度	4.60			
			⑪事業満足度評価結果	4.00			
		(2)受講者	⑫受講者の意識の変容	5			

大分類	小分類	事業評価 大項目	事業評価 小項目		小項目 平均値	大分類 評価点 4.6～5.0:A 大いに評価できる 4.1～4.5:B およそ評価できる 3.1～4.0:C どちらともいえない 2.1～3.0:D あまり評価できない 0～2.0:E 全く評価できない	AOTS事務局による 定性評価コメント
3.普及度	1)研修プログラム実施	(2)受講者	⑬受講者目標人数	4.95	4.5	B	<p>・定員100名に対し99名の受講者で研修を開始し、95名の修了者を出すことができた。また、修了者のフォローアップとして、修了者が参加できる科目を一部設定し、最新情報の提供やネットワーキングにつなげることができた。</p> <p>・ネットワーク構築は、講義内での受講者間ディスカッションを設けることや意見交換交流会の科目を新設したことで一定の成果が見られた。その流れで、受講者企画の研修プログラム外での交流会も定期開催され、研修プログラム終了後も継続したネットワークが構築できた。</p>
			⑭申込定員	5			
			⑮申込者数	5			
			⑯出席率	4.75			
			⑰修了者数	4.80			
	2)広報	(3)受講者募集	⑱募集期間	4.81			
			⑲広報媒体・ツール	3.93			
			(4)研修プログラム内容紹介	⑳一部動画の一般公開			
	3)各地域への波及効果・自走化	(5)ネットワーク構築	㉑一部科目の一般公開	5.00			
			㉒事務局・講師・受講者	3.74			
			㉓受講者間(SNS活用)	4.57			
			㉔各地域ブロックからの受講割合	3			
			㉕自治体・交流協会・諸団体等との連携	4			
㉖研修運営実施マニュアル公開			4				
4.持続性	4)事業推進基盤の構築	(6)事業及び研修実施の円滑化	㉗事前視聴動画の作成	4.38	4.1	B	<p>・動画作成やLMS活用に加え、Googleクラスルームを併用することで研修環境基盤を整備できた。</p>
			㉘LMS活用方法の確立	4			
			㉙内部用運営マニュアル作成	4			
5.プロセス	5)研修体制	(7)検討委員会	㉚開催時期・回数・時間	5	5.0	A	<p>・外部有識者の委員を招き、専門的かつ客観的な視点で事業の検討及び評価の体制をつくることができた。</p> <p>・事務局対応については、授業後に事務局Q&Aという時間を事前に設定しておき、受講にかかる質疑を受け付ける体制を整えた。</p>
			㉛委員構成・人数	5			
		(8)評価委員会	㉜開催時期・回数・時間	5			
			㉝委員構成・人数	5			
		(9)事務局	㉞連絡・対応	4.82			
			㉟人員構成・人数	5			
総合評価				4.51	4.5	B	37

4. 成果と課題

○外部評価委員会からの評価内容まとめ

外部評価委員からの評価	
受講者間の学び合い	・色々な取り組みの中で、受講者主体で活動していく時間を積極的に取り入れていくあたりなど興味深く、やはり各受講者が自己研鑽を積んでいき、受講者全体の質が高まる研修にしていくことが重要だと思うので、そういう意味でもよい研修であったと評価できる。
	・今年度の研修全体の内容からは、受講者の主体性を引き出す、そのようなものに富んだ研修であったと思った。修了生を巻き込むことで、現役受講者が次にどんな展開が自分たちに待っているのかということが少しでもイメージできたことは大きいし、自主性というものが修了した後に多方面でのアンテナの広がりとなり、学びを深めていききっかけになるのではと感じた。
コースデザイン演習	・コースデザイン演習については、昨年度の改善点であった演習期間や発表時間を長くとることや、発表後の受講者間の質疑応答時間の確保や活性化を促進するということも実施でき、それにより各受講者の理解も深まったことが見受けられた。その一方で、コースデザイン演習における成果物の発表会での担当講師からのフィードバックの時間確保を十分に行うことが今後の課題である。
日本語教育の参照枠との関連	・日本語教育の参照枠の理解を深めることについて、現在各方面で、行動中心アプローチをどのように教育や学習の中に取り入れていけばよいのかが難しい、という声を多々聞く。その中には、内容を知らずに難しそうだという印象で拒否感を持っている人も多い。そのような中、今回の研修では教材を理解する過程で、具体的にテキストを参照しながら、受講者が行動中心アプローチに対する理解を深める学びがあったはずなので、その前提となる日本語教育の参照枠の理念や、なぜ今この日本語教育の参照枠なのか、という内容にもつなげられればよい。
事業の普及と継続性	・昨年度の受講者の難易度に対する数値を基に改善していたり、受講者や修了者の持続的な交流を実現していること、そしてフォローアップも総合的に展開して研修効果を高めている点が極めて意義深いと思う。おそらく他の事業にも重要な知見を与え得るものだと思うし、研修受講者も研修を通して、日本語教育の参照枠の理解を深めたり、市区町村との連携や協働を実現していたり、研修効果の広がりも感じられるものであった。
	・今回、研修事業によって構築されたネットワークが強化されており、本事業をきっかけとして継続している活動や、新しい別ネットワークが県や市で発生しているという報告もあった。そういった出来事が生じていることを是非、今後の展開の奨励のためにも、AOTSウェブサイト等でこの事業をきっかけとした新しい取り組みとして紹介すると、研修受講者の励みにもなるし、この事業全体の社会に対するプレゼンスの拡大にもつながるのではないかと。
	・年々増加する国内の就労者への日本語教育支援や共生社会の実現に向けても非常に重要な成果を実現されているものと思われる。ますます需要は高まっており、今後の事業の継続も望ましいものと個人的には考えている。

4. 成果と課題

○課題と改善内容

今年度の本事業及び研修プログラム実施にかかる課題と改善内容は以下のとおり。

	課題	改善
研修内容	・今年度、外国人受入れにかかる新制度「育成就労」を講義内容で扱うなど対応したように、その時々において最新の情報を提供する研修プログラムにする必要がある。また、日本語教育の参照枠についても、昨今の業界を取り巻く政策的な流れも相まって一般的な理解深化や認知度が高まる中、受講者の既有知識を考慮した講義内容の検討が必要。	→外国人に関わる政策や制度、受講者の属性やレディネスを考慮した講義内容に対応できるよう検討していく。
受講者間の学び合いとネットワーキング	・本研修の昨年度修了者と今年度受講者の意見交換交流会の場を設けたが、修了者と現役受講者とで温度差が見られるグループもあった。	→修了者を含めた受講者間のディスカッショングループは、勤務地や所属機関などの属性を合わせるなど、相乗効果を生む仕掛けを検討する。
	・再現性のある受講者間ネットワーキングを創出するための仕掛けを検討するにあたり、ネットワークのプラットフォームが、LMS、Google、Facebook、LINEグループなど複数あるため交通整理が必要。	→研修プログラム中の活用ツール、終了以降の推奨ツールをそれぞれ周知するなど、ネットワークの走り出し段階は事務局側である程度コントロールする対応を検討する。
コースデザイン演習	・コースデザイン演習における各グループ成果物の発表会において、担当講師から受講者へのフィードバックの十分な時間確保。	→受講者間の議論の活性化並びに講師からのフィードバックが時間的に両立するよう、進行の時間配分等の調整を検討する。
	・コースデザイン作成において、ニーズ及びレディネス分析の箇所が、講師の意図とは異なる内容や方向性で作成したグループが散見された。また、検討事例のケース内容の読み込み方や捉え方も、受講者の共通認識のすり合わせが十分でないグループがあった。	→コースデザイン作成のためのフォーマットや検討事例のケース内容について、取り組み課題や事例の捉え方がより明確になるよう、事務局及び演習担当講師間で検討を行う。